中井やまゆり園における
暮らしの改善の取り組み

中井やまゆり園　支援改善アドバイザー
羽生　裕子

中井やまゆり園　状況説明

・Aさんの話
・以前のAさん
・他事業所の利用をした時のAさん

Aさん

【年齢・性別】

○　２０代、女性

【入所経緯】

○　障害児施設から 中井やまゆり園に入所

【人柄】

○　豊かな観察力、音楽が好き
　　音楽に合わせて踊ることも好き

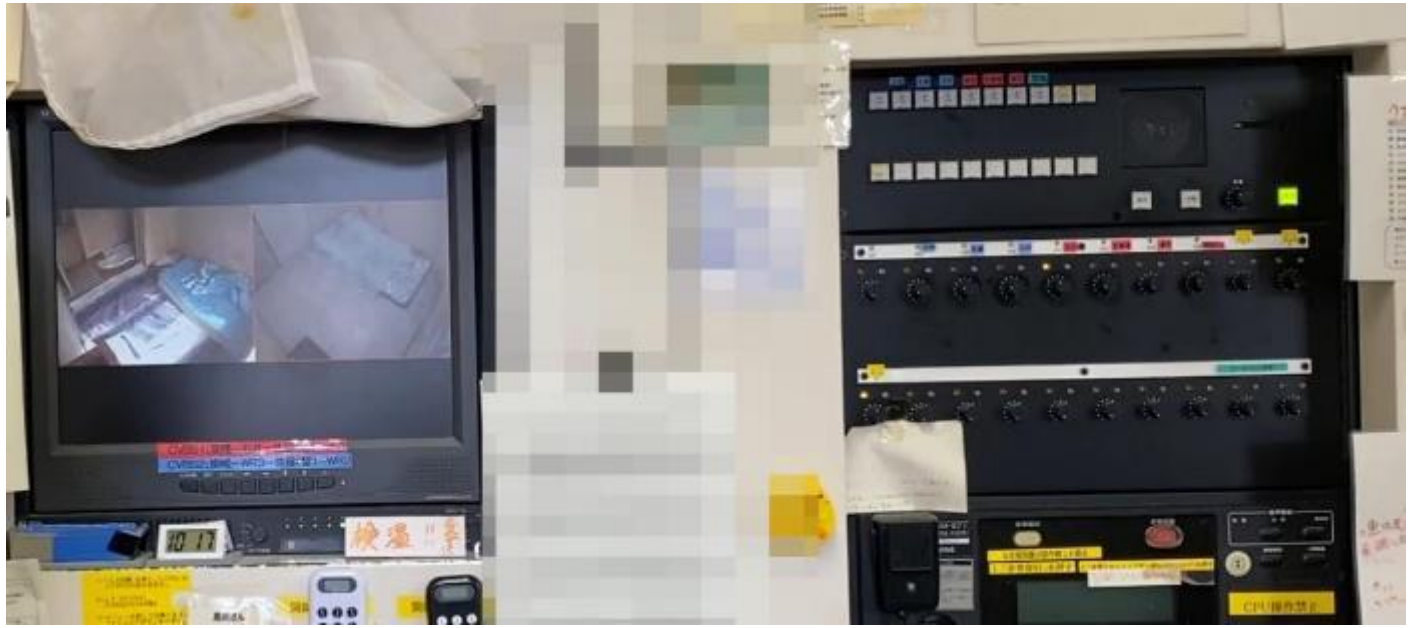
以前のAさん

- 激しい頭突きなど 「難しい人」
- 刺激を遮断する 長時間の居室施錠の中では意欲が見られなかった
- ひとりで過ごす時間が多かった

同じころ他事業所を体験した際のAさん

中井やまゆり園とは何だったのか？

「刺激」を
排除した空間



- 廊下や園庭にも人気がなく、利用者の姿が見えない
- モニターで居室を監視している寮も
- 見学時、刺激にならないようにパーテーションが用意されていた

孤立する
利用者

- 真っ暗な部屋
- 便が天井にこびりついた部屋
- 何も物がない部屋…
  で長時間居室施錠
- 日中活動（やること）がない

失われた
「暮らし」

・破壊を防ぐため固定された家具

・便座やドアのないトイレ

・封鎖された洗面台

中井やまゆり園とは何だったのか？

・行動障害の人を集めて
障害特性に対して集中療育→分離させてしまった

・“行き場”のない人たち（他では対応できない）を受け入れる事で
役割を全うしているという意識

・強度行動障害の点数が下がることが第一

→生き難さを強めて、何もできない人達のように

中井やまゆり園とは何だったのか

・4年前後の人事異動で「誰でも働ける場所」
　職員が関わらなくても利用者が一人で過ごせることが重視

・安全に職員・利用者ともに怪我無く過ごすことが第一

→関わりが失われた
　本来、人は関係性の中で生きるもの

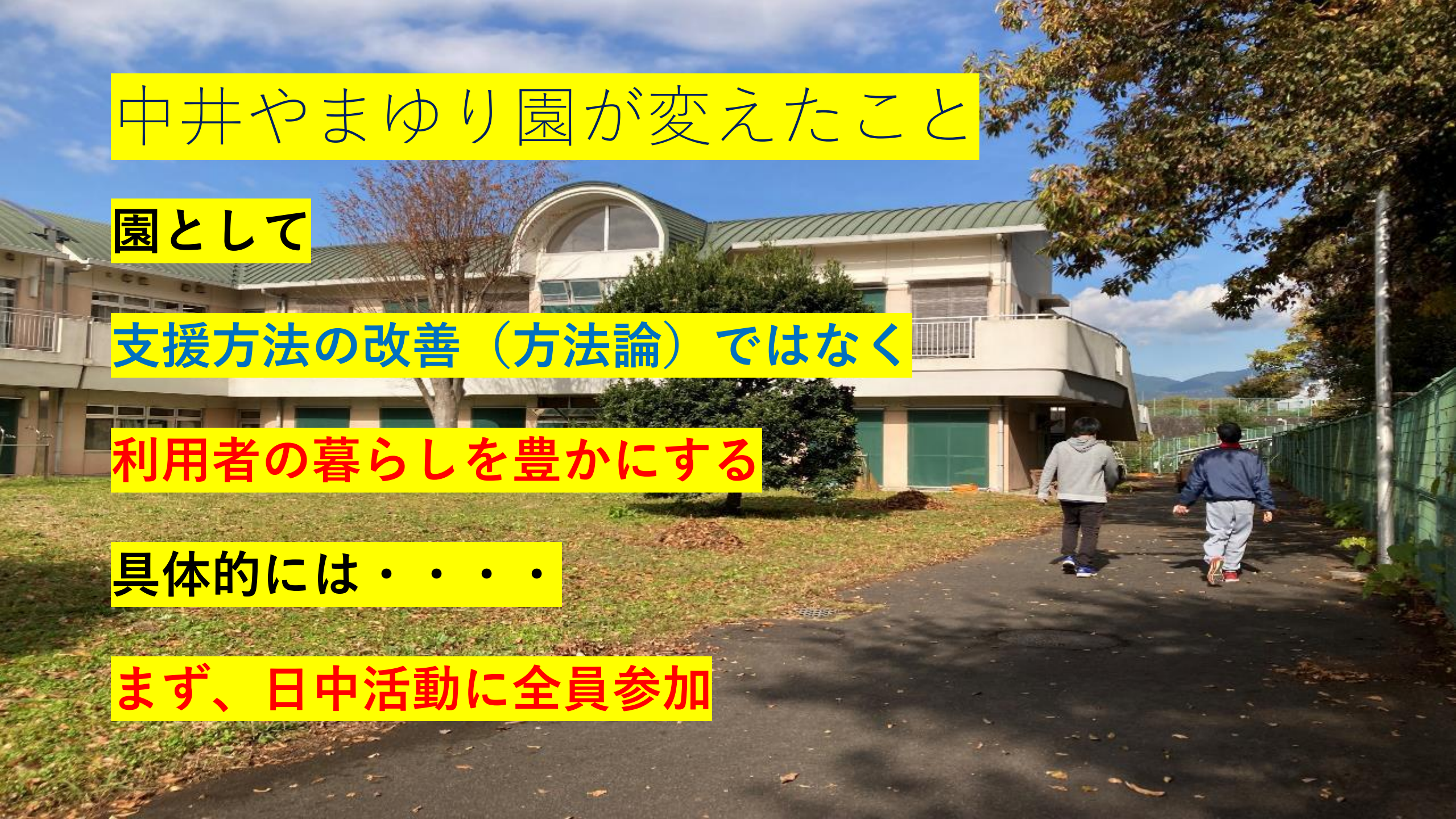
中井やまゆり園とは何だったのか

その結果、中井やまゆり園は利用者に対して…

家族、仲間・地域等から孤立させてしまった。

一人ひとりの大切な時間を奪ってしまった。

「暮らし」を奪ってしまった。



中井やまゆり園が変えたこと

園として

支援方法の改善（方法論）ではなく

利用者の暮らしを豊かにする

具体的には・・・・

まず、日中活動に全員参加

Aさんの変化

○　居室施錠の廃止を試みる中で

本人と職員とのかかわりが増えた

○　日中活動が始まり　新しい一面が見えた

○　本人の暮らしが変わり　職員が変わった

Aさん・現在の暮らし

○　笑顔が増え、意欲的に活動に取り組む姿が見られるようになった

○　仲間と一緒の活動が増えた

○　職員が本人を励ましながら一緒にチャレンジすることが増えた

仲間と作業に取り組む

昼食後にデイルームでくつろぐ

職員の変化

〇以前は「頭突きの激しい利用者さん」

→何に関心を持つか、笑顔を見せてくれるかを知りたいと思うように

〇うまくできないとき、

以前は「無理するともっと大変になるのでは…」

→今は「頑張って」と励まし、一緒に乗り越えるような支援へ

〇これからチャレンジしたいこと…おしゃれをして、コンサートや野球観戦に行きたい。

「日頃関わる支援者の存在が障壁になる」

「支援者のかかわり方が大きく影響する」

以前と現在を比較して

激しい行動障害を出さないために

→刺激遮断、居室施錠、身体拘束

→結果として、行動障害の出現回数は減ったかもしれないが、

「暮らし」「人とのかかわり」「豊かな表情」「意欲」は失われていた

4月から、施錠廃止、身体拘束廃止だけでなく

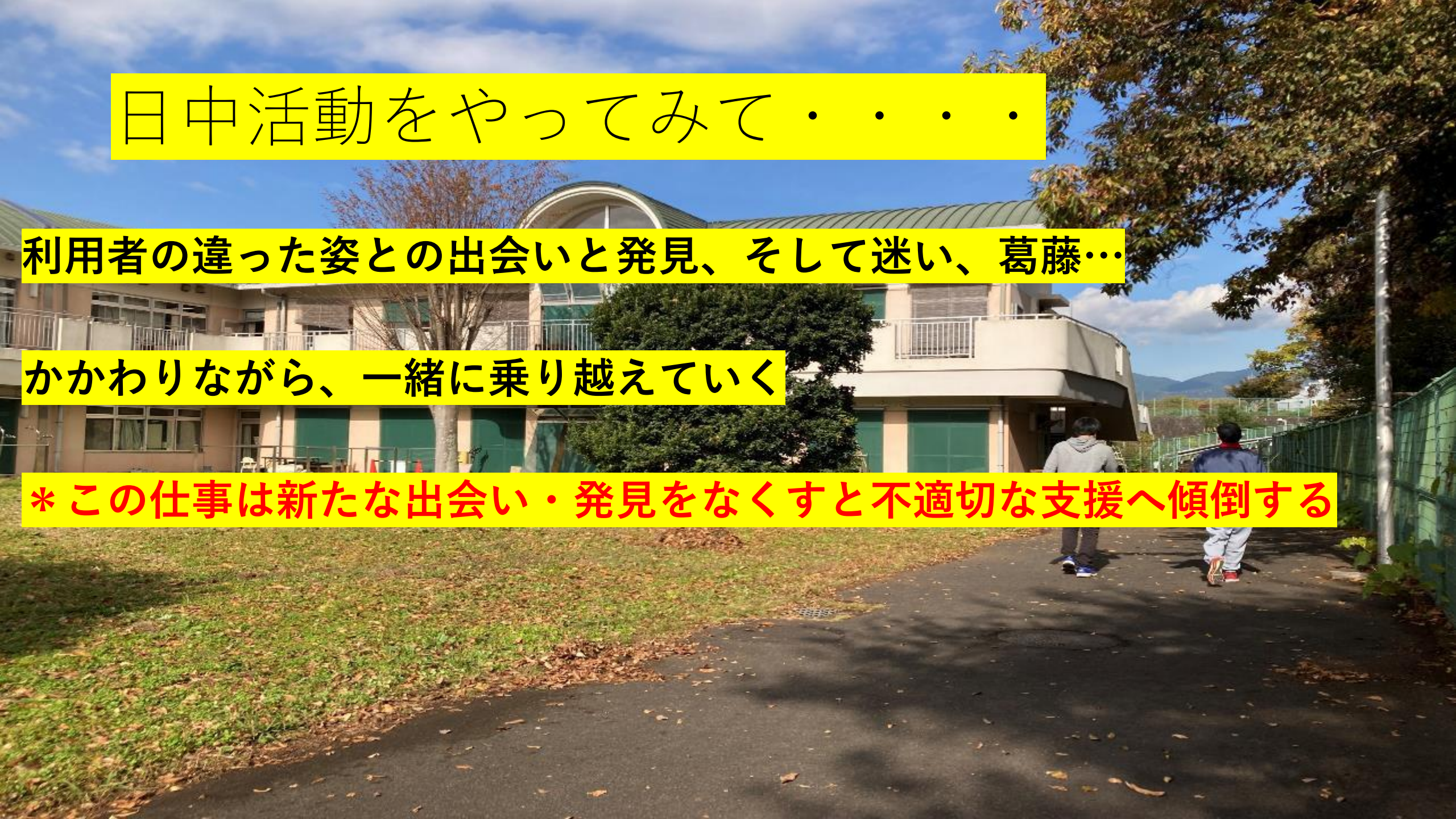
「日中活動の充実を軸として暮らしを作り」

「職員や仲間とのかかわり」を取り戻すことで、

「表情が豊かになり、暮らしの中で意欲的な姿が多くみられるようになった。」

・今後さらに、職員がAさんへの理解を深めることで、Aさんの可能性が広がり、もっと社会資源を活用して人生を楽しむことができるのではないかと考えている。

他の利用者の変化



日中活動をやってみて・・・・

利用者の違った姿との出会いと発見、そして迷い、葛藤…

かかわりながら、一緒に乗り越えていく

＊この仕事は新たな出会い・発見をなくすと不適切な支援へ傾倒する

なぜ、変わりつつあるのか

・障害の特性・問題行動を見るのではなく
　一人の人間として関わる

・利用者と職員が同じ方向を見る
　支援する側ーされる側ではなく

利用者も職員も当事者へ
方法論を統一するのではなく…当事者として同じ方向を見る

更に目指すこと・・・

職員のかかわりが変わる→利用者も変わる→さらに職員が変化していくという**相互作用**

利用者も職員も幸福感を得ていく→**やりがい**

利用者・職員の幸福感が膨らみ
関わる人たち（地域）へ広がっていく
→**皆が当事者になる（自分事化）**

終わりに

・利用者一人ひとりの人生が在るという事を何よりも大切に考え
一人ひとりの豊かな暮らしを一緒に創り幸せを追求していきます。